

サハスラーラ、光の住まい

イーシャ・サーデサイ

バーバ・ムクターナンダのマハサマディーを祝う

シッダ・ヨーガのセレブレーション・サツツァング

2020年10月31日土曜日

人間であることの仕事の大半は、人生と世界に意味を与えること——そしてそれによって、私たちがその一部であるこの広大で美しく複雑な具現の中に、安全に似たものをいくらか獲得すること——のように思われます。子どもの頃、私たちは周りへの驚きに目を見張り、「あれ」は何だろう、私たちは誰だろう、あそこにあるものは私たちとどう関係があるのだろう、と問います。この知的好奇心——この世を理解したいという熱望とそれにどのように適応するか——は、年を重ねてもなくなりません。私たちはただ考えやレッテル、習慣や伝統、概念や何が善で何が価値があるかという判断を積み重ね——そして程度の差はあっても、それらは私たちの知りたいという要求を満たします。

しかし、私たちのこの世界は予測不可能かもしれません。私たちは、物事がどうあるべきか、何が正しくて何が間違っているか、私たちや他の人がどのように振る舞うべきかという「私たちがなりの」観念を持っています。しかし、私たちが周りに見るものは、しばしば私たちの基準に一致しません。秩序と目的と共に生きようと最善の努力をするにもかかわらず、私たちは気づくと、論理と理性が無視される環境にいるのです。

このような状況でどうすべきでしょうか？

シッダ・ヨーガの道の生徒として、それは私たちの義務を放棄する、あるいは別の方法で「見切りをつける」ことではないと知っています。むしろ、それはこの顕現している世界には「もっと」何かがあると理解することです。私たちが利用可能な枯渇することのない強さとエネルギーの蓄積があり、ほとんど制御できない環境に依存しない意味と目的の源があります。私たちの内側には未開発の完全な世界が広がり、それは私たちの外側に向いている目が処理できるよりさらにまばゆい光の住まいです。私たちはグルの元へ行き、この内なる世界を体験するために——そしてそれによって、この地球上の私たちの人生に、拡張し、啓発された視点をもたらすために——サーダナーを行います。

バーバ・ムクターナンダは大きな熱意をもって、サトルボディ(靈妙体)の頭頂にある千の花弁を持つハス、サハスラーラについて教えました。それは探究者としての私たちの旅の終着点であり、シッダ・ヨーガの道におけるサーダナーのゴールです。

『プラシュナ・ウパニシャッド』では、サトルボディを縦横無尽に走っているのが7億2千万のナーディー、すなわちエネルギー経路であると教えています。これらのナーディーは、プラーナ、すなわち生命力を、私たちの存在の至る所に運びます。シュリー・グルの恩恵で私たちの内側にクンダリニー・シャクティが目覚めると、この意識的で神聖な力が、中心経路であるスシュムナー・ナーディーを通過して上昇し始めます。スシュムナー・ナーディーは肉体の背骨に並行して走っています

クンダリニー・シャクティが上昇する中で、クンダリニー・シャクティによって生じる変容を促進するために、私たちは精神修行を行います。チャンティングし、瞑想し、ダクシナーをささげ、そして「シュリー・グル・ギーター」を朗唱します。私たちがシッダ・ヨーガの修行を行う時、シャクティは六つのチャクラ、すなわちスシュムナーに沿って並んでいるナーディーのハスの形をした中心のそれぞれを、着実に浄化します。するとプラーナは、スシュムナーから枝分かれした何百万ものナーディーを通過して動き、そこに保管されている過去の印象であるサムスカーラやカル

マを取り除きます。上へ、上へ、上へとクンダリーニー・シャクティは旅を続けます——汚れを落とし、浄化し、あまりにも長いこと集めてきた痛みや困難から私たちを解放し、私たちの存在の中により素晴らしい調和をもたらすことを助け、最終的に、頭頂の…サハスラーラに到達するまで。

サハスラーラはサンスクリット語で、「千の輻(や)」を意味します。この描写の通り、このハスの千枚の花弁は同心円状に広がり、らせんを描いて無限へと達しています。これらの花弁は純白で、完璧な形で、それらが発する光は極めて明るく、何百万もの太陽の輝きを持つと言われています。

サハスラーラの中心は、ニーラ・ビンドウ、バーバがしばしば教えていた輝くブルーパールです。ブルーパールはゴマ1粒の大きさで、至高なる自己を表し、そしてそれはこの全宇宙の源の点です。

サハスラーラとブルーパールのダルシャンを受け取るということは、個人の魂が至高なる者と一つになるのを体験するということです。そのため、サハスラーラという住まいでは、言葉は突然止まると言われています。思考は到達できません。サハスラーラはマインドや感覚の能力を超えています。それは、私たちの存在を条件付けたり、特徴付けたりできるあらゆるものを超越しています。代わりに湧き上がってくるものは、プルノーハム——純粋な「私である」——という気づきです。そしてこの語句——「私である」——に何かしらを生涯にわたって付け加えてきた後に、私たちは、自分たちのあらゆる概念、考え、レッテル、そして道義などによって収縮するようになった前に、私たちがもともとそうであった光と再び一つになるのです。相反するもの(苦痛と喜び、高揚感と悲しみ)は、外側にあるものだけで自分自身を定義付ける時には私たちの内側でシーソーのように上下しますが、ここではもはやその支配力は届きません。

サハスラーラという住まいでは、私たちはただ…存在します。「私である」。あるいは、バーバが人々に教えて言ったように、「私は光である」

このサツァングのタイトルは、「神聖な休息の領域に住む」です。

シッダ・ヨーガの道は、この道に従うことが私たちをそこへと導いてくれるが故に、まさに比類がありません。これが、バーバが行ったこと——世界にシャクティパート・ディークシャーをもたらし、サハスラーラとブルーパールについて教え、その直接の体験を与えたこと——が実に革命的であった理由です。バーバ・ムクターナンダの恩恵を通して、バガヴァーン・ニッティヤーナンダの恩恵を通して、そしてグルマーイ・チッドヴィラーサーナンダの恩恵を通して、私たちは実際に神聖な休息の領域に住むことが「可能です」。サハスラーラは抽象的概念ではありません。教典の言説に委ねられた秘伝の概念ではありません。それは精神の道における探究者たちの生きた体験であり、そして知ることはあなたの責任なのです。



© 2023 SYDA Foundation®. 著作権所有。